

# プロ グ ラ ム

主 催

東京學生アメリカン・フットボール聯盟

## 第一回感謝祭

アメリカン・フットボール試合



横濱カントリー・アスレチック・クラブ

對

全東京學生選抜軍チ一ム

早稲田——明治——立教三大學選手

於・東京・明治神宮競技場

昭和九年十一月二十九日

# 東京學生アメリカン・フットボール聯盟

## 加盟チーム

早稲田大學  
明治大學  
立教大學

昭和九年二月十八日設立

米国アーヴィング・ラッセル博士の「日本式試合」、本試合期リースに於ける同様衛星トロフィー、學生、アスリート、協約固定ノートボートルールに従ひ、試合を行ふ目的の下にて加盟が實行せられたる所毎年十月、十一月及び十二月の三箇月を定期的試合リースとする。

## 聯盟役員氏名

委員長	立教大學教授	ボーラー・ラッセル氏
	明治大學教授	松本龍藏氏
	立教大學教授	ジョージ・マーシャル氏
	早稲田大學教授	中島太郎氏
學生委員	早稲田大學學生	竹崎道雄氏
	早稲田大學學生	藤田一郎氏
	早稲田大學學生	上岡繁行氏
	早稲田大學學生	吉岡武男氏
	明治大學學生	山田忠雄氏
	明治大學學生	半額明氏
	立教大學學生	川田四郎氏
	立教大學學生	太原勇男氏
	立教大學學生	相川徹夫氏

## 聯盟假事務所

東京市豊島區池袋立教大學五號館

### アメリカン・フットボール・ゲームについて。

歴史を通じ過去をかへり見るならば我々は其處に何等かのゲームが行はれてゐる事を發見する。

文明社會に於いてはその社會人の體育の爲、何等かのスポーツが必要なりし事を認めて來てゐる。

幾世紀間の長年月を経て漸時此等のゲーム（競技）は改良され發達して來たのである。然して今日我々は最も高尚に發達したるチームゲーム（團體競技）の幾多を持つに至つたのである。此等の團體競技は多數の人々の間に成長發展し、今日に於いては各種スポーツの良き團體競技を見るべく雲集する觀衆を見るに至つた。

米國に於いては特に興味あるフット・ボール試合が演じられる時には遠隔の地より多くの人々がその試合を見んと參集するのである。

幾萬人を收容する幾多の大競技場はフットボール試合が舉行される毎に満たされ、米國に於けるフットボール試合は一律觀を呈するのである。觀衆のあふれたる大競技場（スタジアム）——大音楽隊——應接閣——そして生命を賭しても戦はんとする二十二名の鬪志に燃ゆるプレヤー——これは誰も

が一度は見んと欲する大スペクタクルの一である。一八七三年以來米國に於いてはこのフットボール・ゲームは大學生活とは切り離し得ない最も人々の熱狂するものであつた。このゲームの初期は單に暴力に訴へるが如き最も危険なる、又亂暴極まるゲームであつた。然し乍ら漸時、幾多の改良が加へられ、ルールの變遷を見て其のプレーヤーの安全性を確保するに至つたのである。

フォアワード・パス (Forward Pass) (前投) 及レーテラル・パス (Lateral Pass) (ラグビーのバスと同様、横或は後投) が用ひられ、又安全なる試合用具が使用さるに及んで他競技と同様決してラフ（亂暴）な危険なものではなくつたのである。

アメリカン・フットボールは勿論困難な又スピーディーなゲームではあるが人々が信するが如き程危険にして荒いゲームでは決してない。

プレイヤーが時々甚い負傷を受けるといふ事は度々聞く事ではあるが、之れは何ぞれのスポーツに於いても又聞かれる事である。

アメリカン・フットボール・ゲームは其の者に於いては英國ラグビー・ゲームより發展したものである。然し乍ら多くの變改が與へられ今日ではラグビー・ゲームの唯片鱗をのみ残すに至つた。

## アメリカン・フットボール・ゲームに関する大略の説明

2. 使用ボールはラグビーボールよりは小さいのが用ひられる。

1. フィールドは横百六十呎、縦三百六十呎の長さである。

3. 試合開始は攻撃側四十ヤードラインより

ゴール・ポスト(Goal Posts)は最端線(エンド・ライン)(End Line)上にある。ゴール、ラインより十ヤードの地點にある。ゴール・ラインよりエンドラインに至るゾーン(地帯)をエンド・ゾーンと呼んでゐる。

2. 使用ボールはラグビーボールよりは小さいのが用ひられる。

3. 試合開始は攻撃側四十ヤードラインより

防禦側フィールドに向ひ真直ぐに蹴られる(キックオフ)事により始められる。若し真直ぐ蹴られずサイドライン外にそれた場合は、もう一度蹴り直さればならぬ。又若し二度目も外す

れた場合には対手側に球は移され、対手側が四十ヤードラインよりキックオフにて試合開始する。

南北エンド・ゾーンに挟まれてゐるフィールドは五ヤード毎にゴールラインと平行にラインが引かれてゐる。(右圖参照)

1. 試合時間は六十分間であり、四クオータース(十五分

間毎四回)に分けられ、各十五分間のゲーム・タイムとなり。十五分間の試合後一分間のインターミッショーン(休憩時)が與へられ、ハーフ・タイム(第二、第三クオータ間)には十五分間のインターミッショーンが與へられる。

5. サブスチコーション(補缺選手)は幾人いても出場せしめ得る。各クオーターに選手の變換をなし得る。

6. チームは十一名より成る即ち七名のラインズメン。(フォアワード・メン)及四名のバックフィールドメンである。又このバックフィールドメンは二名のハーフ・バック、一名のフル・バック、及び一名のクォーターバックに別けられる。

ラインズメン(フォアワードメン)の構成は次の如し。  
エンド ① タックル ガード ③ センター ④ ガード ② タックル  
エンド

バックフィールドメンは

クォーターバック

○ ハーフバック フルバック ハーフバック

他の異なるフォーメーションも用ひられる。然し乍ら試合が開始されると如何なる時にもチームは少なくともスクリムマークのライン(スクラムライン)(ラインズメン)には七名を置かねばならぬ。

7. 一チームはボールを十ヤード進めるため四つのダウンズ(Four downs)(四度プレイする意)をなす権利がある。然し四ダウンズ中に十ヤード進む事に失敗せる時にはボールは對手側に行き、對手側の権利となる。

8. スクリリメージ(スクラム)によりボールが入れられプレイに移る。

センターはボールをバックフィールドにバスする、兩チームのどのプレーヤーも、攻撃側のセンターのみをのぞき球がパスされる前にその球より先に出る事は出來ない。

9. 攻撃チーム側に於いては、ボールを持つてゐるプレーヤーのみタックルを外す爲に手を用ひる事が出来る。攻撃チーム側の他のプレーヤーは其の肩或は身體を防禦チーム側プレーヤーのブロッキング(つぶし)に用ひる事が出来る。然し手は用ひる事は出來ない。

10. 防禦側全チームプレーヤーは對手側のブロッカー(つぶし手)を防ぐ爲に用ひる事が出来る。然し乍ら拳固或は平手にても對手を打つが如き亂暴は許されない。

けしか許さない。そのパスをなすべきプレーヤーは必ずスクラム・ラインの後方五ヤードの地點に離なればならぬ。

スクラム・ラインのエンド・プレーヤー及バックフィールドに位置する各プレーヤーはそのバスを捕受する事を得る。

防禦チーム側の全プレーヤーはそのバスされたボールをインターチェプトする事を得る。ファウチャードバス、プレイに於てはスクラム・ラインを越えて兩チームは防害も出来なければつぶす(ブロック)事も出來ない。若し防禦チーム側がそのバスを受けんとするプレーヤーを防害した場合(そのボールをのみ處理せんとする場合を除いて)そのバスは防害された場所にて完了されたものとする様ルールされてゐる。攻撃側チームの一プレーヤーが若し防禦側チームのプレーヤーをインターフィヤせる時、その罰則は一ダウン(One down)及び十五ヤードのロス(罰失)となる。

12 レーテラル、バス或はバックパスは一プレイの内に何時でも爲し得、又幾回にても行ふ事を得る。

13 フアムブルド・ボール(落球)は攻撃チーム側にては常にそれをリカバーする事が出来るし、又そのボールをアドバンス(進める)する事も出来る。防禦チーム側にては若しこのボールがグラウンドに落ちてからリカバーした場合にはそ

の球をアドバンスする事は出来ない。即ちリカバーは爲し得るもの、アドンバスはなし得ない。

#### 14 スコアリング(得點)

タッチ・ダウン(TOUCH DOWN) ..... 六點  
サクセスフル・トライ・フォア・ポイント  
(Successful try for Point) ..... 三點

ゴール・フラーム・ザ・フィールド(Goal from the field) ..... 六點  
セーフティ(Safety by opponents) ..... 二點

タッチ・ダウンはゲームの主要得點である。それはボールか對手側ゴールラインに持ち越された事により又對手側のエンドゾーンに完投されたファウチャードバスによりタッチされ得る處のものである。タッチダウンは又對手側のゴールラインの上、或はエンドゾーンに於いてボールがリカバリングされた場合にも得點される。

一タッチ・ダウンを得たチームは何處の地點からでも、又はその三ヤードライン外の何處の地點からでもスクラムによつて出たボールをプレイに移して點を加へる事が出來得る。そのプレイは次の如きものでその成功したる場合にのみ三點を加へる事が出来るのである。

1. フィールドよりゴールに球蹴り入ることを得た場合  
2. ゴールラインを越えてボールを持込み得たる場合

3. 對手側エンドゾーンにファウトバスが極つた場合  
セーフティは一口にて説明するはやゝ困難であるが、ラグビーに於けるタッチ、五ヤードスクラムの場合に似てゐる。  
この場合には對手側に二點の得點を與へる。

即ち、一チームの保有(権利ある又は攻撃チームの球)に  
あるボールが、そのチーム側のゴールライン後方、ライン  
上、ラインを越えて、そのゴールを防禦せるチームから來た  
ボールを處理し得る範囲内にありて、尚、之をデッド(ノー  
プレイの意、球の権利を失する意)と宣告せられた場合、これ  
をセーフティと稱し、對手側チームに二點の得點をされる。

キック、オフでゴールしても得點とはならぬ。スクラムより或はファア、キック(好蹴)により得たる、フリー・キック  
によりて爲されたフィールド内のプレースキック、又はドロップキックにより成功したるフィールドキックは得點となる。

プレーヤーに対するペナルチ(罰則)或はチームがファウルをなした場合その爲されたファウルに従ひ次の如き罰則を受く。

## 罰則

1. 一ダウント失  
Loss of a down
2. 五ヤード罰失  
Loss of five yards
3. 十五ヤード罰失  
Loss of fifteen yards

ボールディング(HOLDING)(タックル、ブロックキングと  
異なり對手プレーヤーをつかまえて離さない様な事を云ふ)  
はルールによりフットボール競技に屬すべきものに非ずとし  
らば。

4. 二十五ヤード罰失  
Loss of twentyfive yards
5. ゴールに至るハーフチスタンス罰失  
Loss of half the distance to the Goal
6. ボール保有権罰失  
Loss of the ball
7. 出場権罰失  
Suspension
8. 一時退場  
Disqualification

ゲームに對する役員は次の如し

- (1) レフエリーア  
(2) アンバイア  
(3) ヘッドラインズマン  
(主線審)
- (4) フィールドチャッヂ。

て禁じられてゐる。不正なプレイなるが故にであり、又その技術を損ぶが故にである。最も足の遅い人でも若し彼のチーム、メーツが対手チームを長くホールディングすれば各プレイ毎に四十ヤードを進むは容易である。ゲームは対手ゲームをホールディングすることなしに素直に技術的に、素晴らしいスピードをもつてボールを進める事により最も秀ぐれたものとなるのである。

#### サイドライン、コーチング (SIDELINE Coaching)

サイドラインよりのコーチングはルールにより禁じられる。それはアンフェアなブラクチスと見られるが故にである。

ゲームはプレイヤーのみが彼等の体力と頭脳をもひて戦ふべき故にである。

#### ビーティング・ザ・ボール (Beating the Ball)

プレイを始める時不正なる暗合により対手のボールのプレイに移らぬ前にプレイする事は許されない。ボールがプレイに移されるや否や正直なるサインによりプレイに移つる。ソフトボールとされてゐる。

#### 対手側チームに話しかける事(ゲーム中)

対手側チームのプレーヤーにゲーム中話しかける事は、それが侮辱的言動でないかぎり別にルールには禁じられて居らぬ。

然しこれも他のスポーツと同様グッドスポーツマンは彼の対手に安っぽい言辭は使用せぬものである。

#### 役員に對し話しかける事(ゲーム中)

役員がデシジョンを與へた時には如何なる時でも彼は彼の見し事をもつてその義務を遂行してゐるのであるから、たとへ間違つたにしてもそれに服すべきである。若し役員に言ひ入れる事ある場合には必ずキャップテンをもつて言はしむる事他のプレーヤーは静慮に、ゲームを續行すべきである。ルールに反せるプレーヤーは不正なるプレイをなすものと見なさるべきである。



三大學チーム選手氏名

# 東京學生アメリカン・フットボール聯盟

# — OFFICIAL PROGRAM —

## プロ グ ラ ム

— Versus — ALL TOKYO COLLEGIATE TEAM

対

(Waseda—Meiji—Rikkyo Players)

全 東 京 學 生 選 拔 チ ー ム

(早 稲 田 一 明 治 一 立 教)

2:45 P.M.

午 後 三 時 四 十 五 分

## OPENING CEREMONY

### 開 會 式

3:00 P.M.

午 後 三 時

### KICK OFF

キ ツ ク ・ オ フ

## GAME OFFICIALS

### 試 合 役 員

EE—LIEUT. ALEXANDER GEORGE  
—アレキサンダー・ジョーダ大尉

E —MR. J. EARL FOWLER

ア —ゼイ・アール・ファウラー氏

LINESMAN—MR. FRED HAMADA

線 審 一 渡 田 フ レ ッ ド 氏

JUDGE —MR. JOHN ANKENY

・ジャッジ 一 ジョン・アンケニイ氏

ANT LINESMAN—MR. TADAO KAWABE

審 一 河 邊 忠 男 氏

ANT LINESMAN—MR. MAURICE L. RUSSELL

審 一 モーリス・エル・ラッセル氏

音楽プログラム  
フロリダ・ボール・ルーム  
アル・ユールス編成  
国際フットボール  
バンド

No. Player's Name

番號 選手 氏名

塚平	M
唐木	W
横野	M
吉澤	W
黒澤	M
山本	W
川島	M
畑	W
安藤	R
野中	W
松本	M
黒川	W
竹崎	M
花岡	W
加藤	M
梶谷	R (H)
山田	M
井上	W
藤田	W
川原	M
大前	M
太田	R
頬川	R
鶴井	R
根本	R

## STARTING LINE UPS

### ライ ン ・ ア ッ プ

x

x

x

x

x

x

x

x

x

x

x

x

x

okohama Country and Athletic Club

ワ イ ・ シ ー ・ エ ー ・ シ ー 側

All Tokyo Collegiate

學 生 選 拔 軍 側

○

○

○

○

○

○

○

○

○